

22	都市整備局	航空政策の推進（羽田空港の再拡張及び国際化）
事業概要	<p>東京のみならず日本の国際競争力の維持・向上や経済の活性化を図るためには、増大する航空需要に応えるなど、首都圏とりわけ首都東京における空港機能の充実を図ることが喫緊の課題となっている。</p> <p>そのため、首都圏の空港機能の充実に資する、「羽田空港の再拡張及び国際化」などについて、本年10月の供用開始を確実に実現するために、一日も早い事業の完成に向けた協力を行うとともに、国際化の一層の推進を国に求めるなど、航空政策の推進に取り組む。</p>	
これまでの経過	<p>平成12年6月 都から国への提案要求に、「羽田空港の国際化」を最重点事項として新規に盛り込み、提出。</p> <p>平成12年12月 「航空政策基本方針」(本文は下記で閲覧可)を策定・公表。</p> <p>平成14年6月 国が「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2002」を閣議決定。その中で、羽田空港については、「財源について関係府省で見通しをつけた上で、国土交通省は、羽田空港を再拡張し、2000年代後半までに国際定期便の就航を図る」とされる。</p> <p>平成15年11月 羽田・金浦(ソウル)間の昼間国際チャーター便の運航開始。</p> <p>平成15年12月 都は羽田空港の再拡張事業に対し、1,000億円の無利子貸付による協力を行うことを公表。</p> <p>平成16年3月 羽田空港再拡張事業の事業化を含む平成16年度政府予算案及び関連法案が国会にて可決、成立。</p> <p>平成17年3月 国は羽田再拡張事業(新滑走路の建設工事)を契約。</p> <p>平成17年8月 羽田・金浦間の昼間国際チャーター便が1日8往復に拡充。</p> <p>平成18年3～7月 国は羽田空港国際線地区整備に係るPFI事業を契約。</p> <p>平成19年3月 国は新滑走路建設の現場工事に着手。</p> <p>平成19年5～6月 国が「航空の自由化」「羽田空港の更なる国際化」を盛り込んだ「アジア・ゲートウェイ構想」「経済財政改革の方針2007」を閣議決定。</p> <p>平成19年9月 羽田・虹橋(上海)間の昼間国際チャーター便の運航開始。</p> <p>平成19年12月 地方税制の改正に伴い、羽田空港の国際化を含む首都東京の重要施策に関する「国と東京都との実務者協議会」を設置。</p> <p>平成20年2月 「羽田空港の国際化に関する国と都・関係県実務者分科会」を設置。</p> <p>平成20年4月 羽田・香港間の国際チャーター便の運航開始。</p> <p>平成20年4月 「第2回羽田空港の国際化に関する国と都・関係県実務者分科会」を開催し、都から国際線発着枠の拡大方策を提案。</p> <p>平成20年6月 国が「2010年の供用開始当初に昼間及び深夜早朝合わせて6回の国際線を就航」「昼間に羽田にふさわしい近距離アジア・ビジネス路線として、ソウル、上海等の都市、さらに北京、台北、香港まで就航していく」等の羽田の国際化の方針を盛り込んだ「経済財政改革の基本方針2008」を閣議決定。</p> <p>平成20年7月 「第3回羽田空港の国際化に関する国と都・関係県実務者分科会」を開催し、国から上記の国際化の方針の説明。</p> <p>平成20年7月 羽田への国際定期便乗り入れに関する各国との協議を順次開始。</p> <p>平成20年11月 規制改革会議の重点事項推進委員会公開討論において、都から更なる国際化について提案。</p>	

<p>現在の進行状況</p>	<p>平成 20 年 12 月 「第 4 回羽田空港の国際化に関する国と都・関係県実務者分科会」を開催し、国から国際航空交渉の進展状況について報告。</p> <p>平成 20 年 12 月 都は、羽田空港再拡張事業の国からの無利子貸付の増額要請に協力表明。</p> <p>平成 21 年 7 月 「第 5 回羽田空港の国際化に関する国と都・関係県実務者分科会」を開催し、国から再拡張事業の進捗等について報告。</p> <p>平成 21 年 10 月 日中首脳会談において羽田・北京首都空港間の国際定期チャーター便の運航開始。</p> <p>平成 21 年 10 月 国土交通大臣は「成長戦略会議」において、航空分野の成長戦略の策定に向けて検討を開始。</p> <p>平成 21 年 12 月 日米航空協議によって、羽田に日米双方で 1 日 8 便就航することが合意され、合わせてオープンスカイについても合意。</p> <p>平成 22 年 5 月 国土交通省成長戦略会議において、国際線枠を 3 万回上乗せするなどの方針が打ち出される。</p> <p>平成 22 年 6 月 国が「羽田の 24 時間国際拠点空港化」などを盛り込んだ「新成長戦略」を閣議決定。</p> <p>平成 22 年 9 月 新滑走路と、国際線ターミナル等が完成</p>		
<p>今後の見通し</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再拡張事業に係る施設（新滑走路、国際線ターミナル等）が整備され、平成 22 年 10 月（予定）に供用開始、国際定期便も就航。</li> <li>・ 都では、本年 10 月の供用開始後も、国土交通省成長戦略会議で示された国際線の発着枠の拡大を実現するために必要な施策を早期かつ計画的に実施すること、増大する航空需要に的確に対応するため、昼間の国際線発着枠や空港容量の更なる拡大を進めること、C 滑走路の延伸を早急に進め、極力前倒して供用開始を図ることを国に働きかけていくとともに、国に対する協力及び必要な調整等を実施していく。</li> </ul>		
<p>問い合わせ先</p>	<p>都市整備局 都市基盤部 交通企画課</p>	<p>電話</p>	<p>03-5388-3288</p>